

# Episode8 未来

## ～小・中学校はアートプロジェクトに向いている～

印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部 部長 八街市立八街中学校 美術科 美術部顧問 玉造 明男

### 【美術教師は「アーティスト・イン・レジデンス」である】

多くの美術系大学生は、大学（又は大学院）卒業後の進路選択の際、専門的な技能を生かした会社員、その他の会社員、教員、アーティストなどに分かれるのではないのでしょうか。自分の身近な人を見る限り、アーティストの道を選んだ場合も他職と兼業をしており、アーティストとしての収入が、他職の収入を上回る人はほとんどいません。そんな中、今も制作を続け、作品を発表し続けている友人・知人の多くは美術教師です。

「アーティスト・イン・レジデンス」は、アーティストを一定期間、街に招集し、住居・制作環境を補助するという、アートプロジェクトで活用されている制度です。まだまだ発表の場が少なく、経済的にも不安定な職業であるアーティストを支援する仕組みです。街はアーティストが、その土地の良さや課題を、新たな発想や切り口で可視化することに優れていることを活用します。アーティストは制作のヒントや活動の場・発表の場を得るとともに、住居や経済的な支援を受けます。これにより街とアーティストはWin-Winの関係となります。

作品制作を続けている美術教師はどうでしょう。美術教師も一定期間街にとどまり（1つの学校に概ね3～7年）、住居（住宅手当）や制作の場（美術室や自宅）を与えられ、制作以外の時間、街の若者（生徒）に美術を教えることで安定した収入を得ます。生徒・保護者・街の人々と積極的に関わる中で、その土地の良さや課題を見つけ、制作のヒントも得られます。美術教師は「アーティスト・イン・レジデンス」の1つの形と言えるのではないのでしょうか。

### 八街を描く『Yachimata City Serenade』個展

八街中学校美術科・美術部顧問 玉造明男  
2019年10月26日(土)～11月4日(月) 自宅手創りぎやらりー まろん



第11回八街ミュージアム展内の企画として開催された、八街中学校美術科教師による、自身初の個展。大学の卒業制作120号のアクリル画の他、挿絵を担当した道徳副読本、チーバくんカルタ、書籍の表紙などを展示。



かつて八街と成田をつないでいた軽便鉄道は、八街中学校・八街町営グラウンド横を通過し、富里、三里塚までつながっていたという。2019年4月に千葉県立中央博物館で開催された『千葉の鉄道物語』のギャラリートークに参加し、軽便鉄道の模型に強く魅かれ、本作を制作した。同時期に美術室で制作していた部長による絵画作品『富里・八街国際空港』の影響も強く受ける。八街と空港がモノレールでつながれた未来。八街市を『成田空港の南の入り口』と考え、『山田台インター』→八街最大級のリゾート施設『小谷流の里ドギーズアイランド』→落花生型の美しい駅『八街駅』→軽便鉄道の模型やジオラマを作成した『富里』→三里塚『成田空港』をつなぐ『Yachimata Airport Line』2030年開通！

大学生時代、千葉都市モノレールの工事（千城台駅付近）に交通整理のアルバイトとして関わったことも、本作を描くきっかけになっている。また、本作に登場する八街から成田のルートは、自身の勤務校（八街南中学校1991年～1999年、八街中央中学校2000年～2007年、成田中学校2008年～2014年、八街中学校2015年～）の歴史でもある。

2019年 第9回アトリエ職員室展(佐倉市立美術館)  
『Yachimata Airport Line』(B2 アクリル 2019年) 解説文より

佐倉市立美術館で開催している「アトリエ職員室展」の出品作品として、2015年から毎年「八街」をテーマにした作品を制作。八街ミュージアム展ポスター原画となった『えいちゃん(2015年)』、八街駅をロボット化した『八街駅(2016年)』『The Day(2017年)』、ロータリーに落花生型ロボが立つ未来の八街駅を描いた『Eight City Serenade(2018年)』、かつて八街と成田をつないでいた軽便鉄道をモノレールで復活させた『Yachimata Airport Line(2019年)』を展示。



玉造 明男(たまつくり あきお)  
八街市立八街中学校美術科教諭・美術部顧問/印旛教育研究会第四部会図工・美術研究部部長  
1997年より千葉県教育委員会指定「夢を育む教育」に生徒会担当として関わって以降、八街市の地域連携・幼小中高連携に大きく影響を受け、地域と美術教育をつなぐことを模索し始める。2003年、八街中央中学校美術部顧問時代に、商店街でのシャッター画に携わる。2009年「八街ミュージアム」の立ち上げに廣川政和先生・杉谷浩一先生と共に参加。2010年より「アトリエ職員室展(佐倉市立美術館)」に参加。2011年「成田ミュージアム(後の成田アート博覧会)」を東健一先生と共に企画。2012年「アートレセプションin千葉大学」を佐々木達行教授と共に企画。2019年に「スクールアートプロジェクト」を企画。2019年、八街ミュージアム展にて「玉造明男個展『Yachimata City Serenade』」を開催。現在、八街ミュージアム(4代目)代表。印旛都市中学校美術部展等のホームページ担当。

くことを模索し始める。2003年、八街中央中学校美術部顧問時代に、商店街でのシャッター画に携わる。2009年「八街ミュージアム」の立ち上げに廣川政和先生・杉谷浩一先生と共に参加。2010年より「アトリエ職員室展(佐倉市立美術館)」に参加。2011年「成田ミュージアム(後の成田アート博覧会)」を東健一先生と共に企画。2012年「アートレセプションin千葉大学」を佐々木達行教授と共に企画。2019年に「スクールアートプロジェクト」を企画。2019年、八街ミュージアム展にて「玉造明男個展『Yachimata City Serenade』」を開催。現在、八街ミュージアム(4代目)代表。印旛都市中学校美術部展等のホームページ担当。

## 【街】は小・中学校の卒業生で構成されている】

街で様々な活動をしていると、卒業生に再会することが多くあります。卒業生が働いているお店に、作品展示をお願いすることもあります。卒業生が保護者になっていたり、卒業生が教師になって一緒に働くこともあり、街は卒業生で構成されているんだと実感します。

多くの人々に、美術が必要なものだと感じてもらうためには、まずは、現在小・中学校に通う9つの年代の児童・生徒に対して、「美術は特定の才能がある人がやるもの」ではなく、「誰もが楽しめる身近なもの」であり「社会にとって有益なもの」だという実感がもてるような、授業や活動を行うことが重要です。また大人の鑑賞者に対しても、多くの人々に美術の大切さを感じてもらうための展示が必要です。大人たちが、市内どこかの小・中学校の卒業生であるとすれば、少数でも市内全ての学校の作品を展示することで、「自分の母校の、後輩の作品なんだ」と感じる事ができ、展示に関心を持ってもらうきっかけになります。さらに、作品と子ども達の言葉をあわせて展示することで、作者をより身近に感じることができ、「母校の後輩をはじめとする、身近な子ども達の展覧会」に変わります。

## 【小・中学校は「アートプロジェクト」に向いている】

八街ミュージアムは、地域に根付いた公立の小・中学校学校が主導し、「街は卒業生で構成されている」ことの利点を最大限に生かしたアートプロジェクトであると言えます。八街ミュージアムと同様のことは、公立小・中学校であれば、多くの場所で実現可能です。

2021年度から中学校で完全実施となる新学習指導要領の中では、「地域と連携し、よりよい学校教育を目指すこと」が重要とされています。地域とアートが連携したアートプロジェクトは、まさにこれからの学校教育が目指す方向に合致しています。限られた授業時間の中だけで図工・美術科の学習を完結させるのではなく、身につけさせたい力のために、授業外・学校外の時間や場所を柔軟に連動させて、効果的な学習を行う必要があります。これにより図工・美術科は、学校内だけでは身につかない様々な力が身につく、学び多い教科となり、誰もが認める教育的価値の高い重要な教科となるでしょう。

多くのアートプロジェクトは、企業主導や自治体主導で行われています。また美術系、建築系の大学が主導するアートプロジェクトもあります。しかし、最も地域に密着している、アートプロジェクトに最適な環境であるはずの小中学校が主導するアートプロジェクトは、まだまだ多くありません。そこで、八街ミュージアムを例に、小中学校主導のアートプロジェクトが可能である根拠を列挙します。

### 八街ミュージアムは、年間2千623万円のアートプロジェクトである

- ①年間約513万円の材料費
  - ・市内に約5千人いる若きアーティスト（小・中学生）の、図工・美術科の教材費が1人年間1,000円とすると、計500万円。
  - ・市内に4校ある中学校の美術部の、年間の部費が1校2万円とすると、計8万円。
  - ・シャッター画のペンキ代は、商店街が準備してくれているため、推定年間5万円。
- ②年間約11万円の運営費
  - ・印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部の活動費の一部と、八街ミュージアムに対する教育助成金が、約11万円。
- ③年間約2千万円の人件費
  - ・市内12校にいる各校1名の担当職員が、授業や部活動など、年間の1/3を図工・美術に関わる仕事をしているとすると、公立小・中学校教師の平均年収を推定500万円として、12人分の年収の1/3（つまり4人分の年収）は2千万円。

### 八街ミュージアムは、5千人のアーティストと1万5千300点の作品による、公共性の高いアートプロジェクトである

- ①多くのアーティスト（5千人以上）と、多くの珠玉の作品たち（1万5千点以上）
  - ・市内に約5千人の若きアーティスト（小・中学生）が、図工・美術科の授業で1人年間3点の作品を生み出すとすると、計1万5千点。
  - ・市内に4校ある中学校の美術部で、約100人（各校20～30人）が、1人年間3点の作品を生み出すと、計300点。
- ②多くの人にとって有益
  - ・美術をきっかけに、自分の住む街や商店街や人との交流の機会が増える。子ども達の地域愛が増す。街に人の流れができる。
  - ・図工・美術科の学習が、何を狙っているか、社会にどう必要なかを、街の人々に伝える場になり、図工・美術の価値が上がる。
  - ・学校は「街の文化の発信地」「地域コミュニティーの拠点」としての、かつでの役割や意識を取り戻せる。
- ③公共の利益のためだけに活動する、純粋なプロジェクト
  - ・公教育が主体になることで、営利目的にならない。
  - ・教師は常に公共性や公平性を求められる立場にあり、利益をあげることや、特定の団体とつながりすぎることがない。（各校の管理職や、教育委員会等による、チェック機能が働く）
  - ・子どもたちの笑顔を追及していけば、方向性を間違えない。
  - ・子どもたちの表情や姿が、地域への説得力を与えてくれる。

## 証言7 森川 琢也（八街東小学校・八街ミュージアム副代表）

学校での図画工作の授業は、作品自体をつくるのが学習の目的になっている場合が多く、作品づくりを終えた後、誰かに作品を見せたり、どこかに飾ったりするといった考えを持つ児童は多くない。そこで各題材において、自分の作品をどこに飾り、誰に見てもらうのかという相手意識を明確にもたせて学習に取り組ませるようにした。

児童が作品を通して様々な人との結びつきを感じ取ることができるよう、作品を見てもらう対象と飾る場所は、題材ごとに変えていく。対象は「家族」「学級の友達」「学年や全校の友達」「先生方」「地域の方」など自分たちの住む八街市に関わる様々な人、場所は「家庭」「教室」「校内多目的ホール」「八街図書館」「八街商店街」とし、多くのつながりを生み出すことができるように設定した。また作品を見てもらう際には、感じたことを感想カードに記入してもらうようにした。

相手意識を持ち学習に取り組んだことで、これまで以上に丁寧につくったり、アイデアをいっそう練りながら上手につくりたいという気持ちを持ったりして作品づくりに取り組む児童が増えた。作品を見た人の気持ちを知ること、地域の方が自分たちと関わり合い、応援してくれることや、関心を持ち見守ってくれていることに気づくことができ、自分が市内の多くの人と結びついていることを実感することができた。作品を見た相手から感想をもらうことで生まれた「もっと見てほしい」「ほめてほしい」などといった気持ちは、次の作品づくりの意欲につながった。（2019.11.29 第70回千葉県教育研究会造形教育研究大会 部会D提案「地域とのつながりを実感し表現する児童の育成～作品を通してつながるわたしとみんな～」より）

森川 琢也（もりかわ たくや）八街市立八街東小学校教諭/印旛教育研究会第四部会図工・美術研究部副部長。2018年（第10回）より八街ミュージアム副代表として関わり、CM（DVD）、特製シールプレゼント、八街要賞・八街夢賞など、様々な企画を立ち上げる。

## 証言8 多くの人々から

感想ノートなどに寄せられた街の皆さんの言葉から



色々な発想あふれる、たくさんの作品を見るのができて、とても楽しかったです。私は実際に、お友達とお店を見て回ったのですが、作品を通して、お店の人や商店街など「八街市」と交流できたのも、とっても楽しかったです。普段はあまり通らない商店街のお店の食べ物なども、とってもおいしかったし、これからもちょくちょく商店街に行って、たくさん八街と交流したいです。

(第12回八街ミュージアム展・応募用紙より/中学2年生)

わたしは友達と一緒に作品を見て回りました。自分たちが小学校の頃や中学校の頃、どんな作品をつくっていたかを、それぞれの作品を見ながら話しました。

(第12回八街ミュージアム展・応募用紙より/中学3年生)

八街駅の周辺には、八街にしかないものもたくさんあって、今まで知らなかったことも、今日知ることができました。明治時代からのお店もあり、歴史を感じました。こんなにのどかで昔ながらの町に住んでいることに誇りを持ちたいです。

(第12回八街ミュージアム展・応募用紙より/中学生の保護者)



〇〇小のみなさんの作品をみて、なつかしくなりました。皆、とても上手にできていますね。皆さんの顔を思い浮かべながら作品を拝見しました。とてもかわいらしい作品、きれいな色づかいですね。きっと心の中もきれいなんでしょう。これからもがんばってくださいね。応援しています。

(第11回八街ミュージアム展「田久保分店」感想ノートより/元〇〇小学校の先生)

久しぶりに美術作品を鑑賞させていただきました。若い感性でテーマを追究し、表現されており、楽しく拝見させてもらいました。ただ開拓地・八街だけに、もっと地域密着のテーマを設け表現すれば、見るものに親しみが湧くと思います。

(第11回八街ミュージアム展「八街市中央公民館・美術部展」感想ノートより/郷土史研究家)

小学3年生の「ふわふわのかわいいネコ」や、くまさんの作品に思わず心がなごみ、ほほえんでしまうほどいやされ、やさしい気持ちになりました。小学4年生の「スイーツハウス」は、1年ちがいで作品に重みを感じました。おいしそう。でも食べるのがもったいなく楽しいお家ですね。

(第11回八街ミュージアム展「たんぼぼ」感想ノートより/地域の方)



※画像 ■上「サンエトワール」2018八街中 ■中「Nuts Up?」2019笹引小 ■下「たんぼぼ」2019朝陽小

## 【美術教師は、すでに「アートプロジェクト」を実践していた】

街の人々と共につくり上げるアートプロジェクトは、誰もが持っているクリエイティビティー（創造性）を引き出すことで、多くの人が美術に関心を持ち、美術を楽しめる社会を目指しています。こうした生涯にわたって美術を愛好する人材の育成は、美術科が長年、目指してきたことです。美術教師が、生徒の実態や興味関心、美術室の設備、地域の特性など、様々なことを調査・研究し、表現や鑑賞を巧みに組み合わせながら、創造性を引き出す授業をつくる姿は、アートプロジェクトに関わるアーティストや、アートディレクターと重なります。美術教師が、さらに一歩踏み出し、発表や教育活動の場を、学校を含めた街全体に広げる時、アートプロジェクトは、もう目の前です。

アートプロジェクトがその土地に根付くかどうかは、そこに関わるアーティストやアートディレクターの意識が大きく影響すると言えます。様々なアートプロジェクトが街に受け入れられるまでの、成功や失敗、試行錯誤の歴史は、学校や美術が街と関わる際の参考となり、美術と街の目指すべき方向を指してくれるように感じます。美術教師が心から街に愛着を持ち、街のために何かをしたいと思う気持ちがあれば、街の人々は、それを敏感に感じ取り、良きパートナーとなってくれるでしょう。

今後、美術が地域と学校を繋ぐ重要な役割を担い、美術が地域連携に長けた教科であることを目に見える形で証明し続けていけば、学校教育における美術科の存在意義は確固たるものになるでしょう。近い将来、地域連携の柱と位置づけるとすれば、未来の美術教師は、現在抱えるその他の業務を大幅にスリム化する必要があります。そうなった時、美術教師はアーティストと無理なく両立できる職業となり、美術系大学生（又は大学院生）にとって魅力ある職業となるでしょう。優秀な美術教師が安定して雇用されることは、学校にとっても、生徒にとっても、街にとっても有益な未来の形だと言えます。

## 展示スペース7 『自宅手創りギャラリーまかろん』 (2019年12月、建て替えのため閉館)

元中学校美術科教師のご夫婦が営む、2つある自宅家屋の片方を改装した手創りのギャラリー。月に1週間、様々な展示会を開催。第10回(2018年)の八街ミュージアムで、八街駅南口商店街以外で初めての作品展示場所となる。

第11回(2019年)八街ミュージアム展の企画として開催された『玉造明男個展～Yachimata City Serenade～』では、八街ミュージアムポスター原画等、八街をテーマにした作品を多数展示。



## 八街を描く8 『富里・八街国際空港』

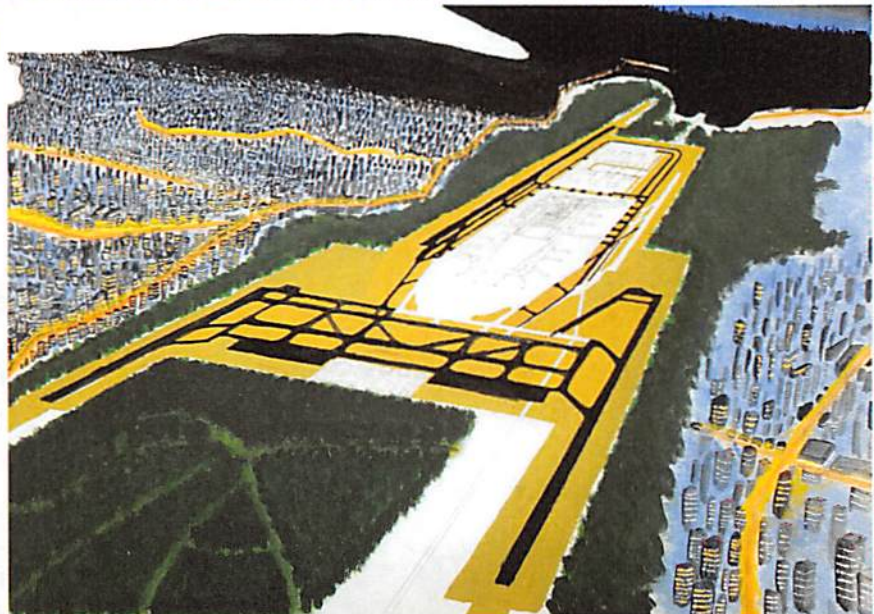
B2 アクリル 令和元年度八街中学校美術部部長 2019年  
2019年 第23回印旛郡中学校美術部展(佐倉市立美術館) / 個展「八街中学校美術部展episode11“八街”」(ギャラリー拓道)他

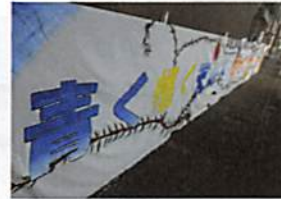
約50年前、羽田空港の機能を分散させるため「新東京国際空港」の計画案が出されました。それは現在の富里市・八街市に建設する予定でしたが、地元の反対をうけ成田の三里塚に建設することになりました。それが現在の成田空港です。

この絵はインターネット上にある画像、現在の富里・八街の地形を元に描いた絵です。細かいところまで描いていますので、ぜひじっくりみてください。

2019年 第23回印旛郡中学校美術部展(佐倉市立美術館)の解説文より

令和元年度八街中学校美術部部長 八街市の歴史に詳しい令和元年度美術部部長。2年生の職場体験学習では「八街市郷土博物館」で八街の歴史を学ぶ。





### 八街ミュージアム Yachimata Museum

イベントの種類 アートプロジェクト・地域型展覧会  
 正式名称 八街ミュージアム (2009年～) / 八街ミュージアム展 (2019年～)  
 開催時期 常設 (※2004年～・2018年～) / 毎年1回 (2009年～)  
 初回開催 2009年  
 会場 千葉県八街市

- 【八街駅周辺】
- ・八街駅南口商店街各店舗 (2009年～)
- ・八街駅市民ギャラリー (2015年～)
- ・八街商工会議所「ギャラリー拓道」(2016年～)
- ・コットン村イトウ倉庫 (2018年)
- 【東エリア】
- ・自宅手創りギャラリー まろん (2018年・2019年)
- 【西エリア】
- ・八街市中央公民館 (2019年)
- ・八街市郷土資料館 (2019年)
- 【南エリア】
- ・小谷流の里ドギーズアイランド (2019年～)
- 【北エリア】
- ・ベシシア フードセンター八街店 (2019年)
- ・真行寺ビーナッツ (2019年)
- ・オランダ屋 八街店 (2019年)



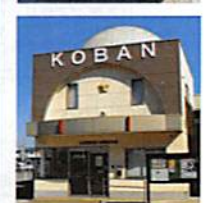
←第10回(2018年)に始まったスタンプラリープレゼント用特製シール



- 参加校・団体 八街市内小中学校
- ・八街中央中学校/実住小学校/交進小学校 (以上、八街中央中学校区2009年～)
- ・八街中学校/八街東小学校/八街北小学校 (以上、八街中学校区2015年～)
- ・八街南中学校/二州小学校/川上小学校/笹引小学校 (以上、八街南中学校区2015年～)
- ・八街北中学校/朝陽小学校 (以上、八街北中学校区2015年～)
- ・八街中学校美術部/八街中央中学校美術部/八街南中学校美術部/八街北中学校美術部 (以上、八街市中学校美術部2015年～)

主催 印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部 (2015年～)  
 協力 八街駅南口商店街振興組合 (2009年～)  
 八街市中学校美術部顧問会 (※2005年/2015年～)  
 小谷流の里ドギーズアイランド (2019年～)  
 八街市の文化芸術振興を考える会 (2019年～)  
 八街市教育委員会 (八街教育創生『MOT E』) (2018年～)

後援 公式サイト <http://bijyutubu.sakura.ne.jp/index-y> (2018年～)  
 公式Twitter <http://twitter.com/ArtclubG> (2018年～)



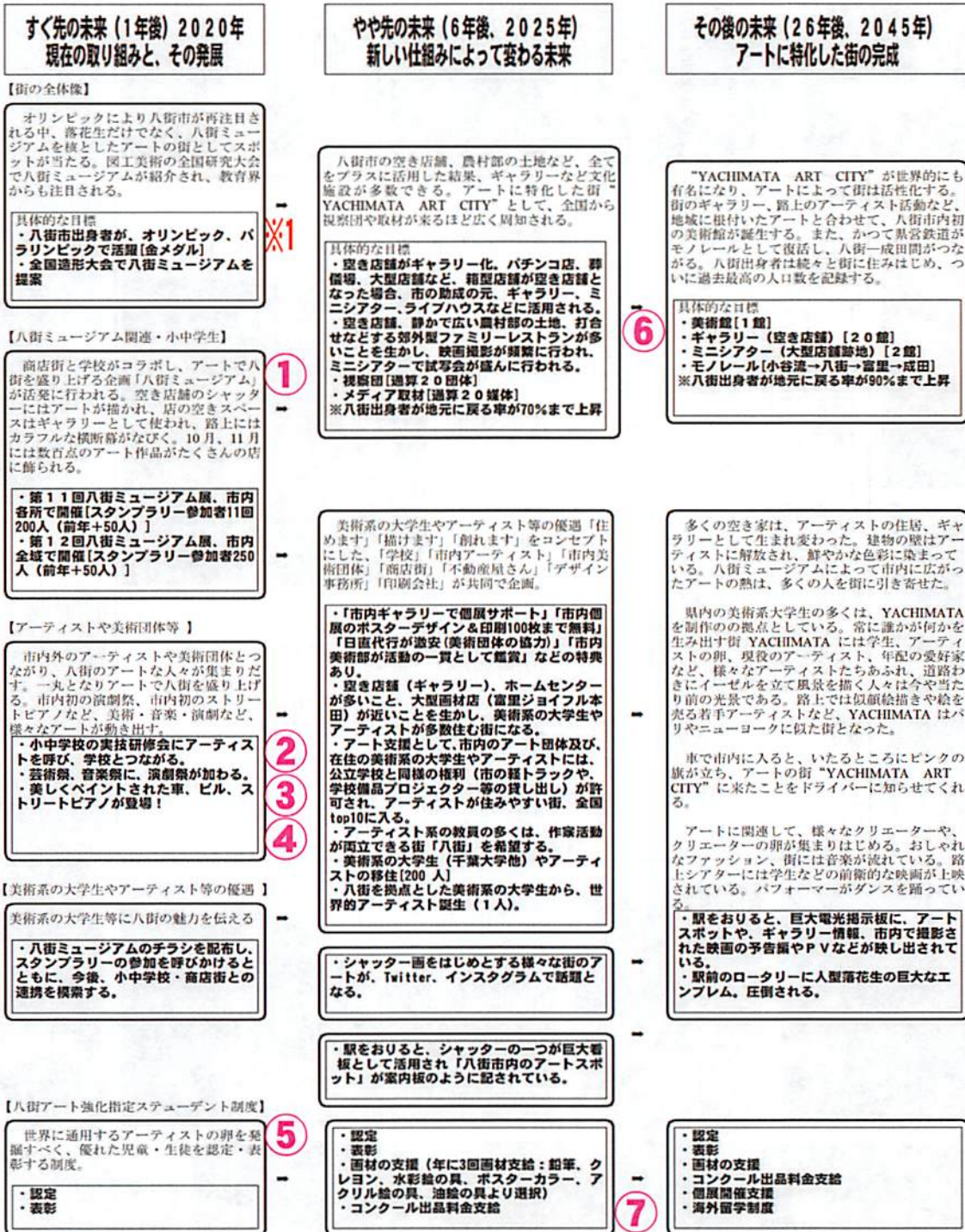
※上段は主に八街ミュージアム展に関連した小・中学生の作品 ※中段から下段(点線以下)は「八街ミュージアム・アートなものの連絡紹介特設サイト」で紹介された、八街市内のアート作品やアートな場所

# 【Yachimata art city 構想】

第10回（2019年）八街ミュージアム直後に作成した「Yachimata art city 構想」は、アートな街「八街」の未来を可視化した表です。八街ミュージアムの活動や、絵画として描かれた八街の未来像がちらりぼめられています。未来の八街は、シャッター画など、街中がアートであふれ、八街のシンボルとして駅前に巨大立像が立ち、小谷流の里ドギーズアイランドー八街駅ー富里ー成田空港をモノレールがつなぎます。かつて千葉県有数の発展した街、県上位の人口数、軽便鉄道や映画館があった頃の八街が復活します。

## アートに特化した街 “YACHIMATA art city” 構想

令和元年11月29日 八街市立八街中学校 玉造 明男



※1・2020.11.20 第73回全国造形教育研究大会は中止【P27年表】

- ①・シャッター画プロジェクト【P7,8年表】【P12アートプロジェクトの可能性】【P12,13年表】【P15八街を描く4】  
 ・“布”プロジェクト【P13年表】  
 ・ギャラリー拓道プロジェクト【P20~24ギャラリー拓道プロジェクト】【P20展示スペース4】  
 ・特設ギャラリープロジェクト【P17展示スペース3】



- ②・2019.7 印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部、夏期実技研修会に、市内アーティストを講師としてお呼びする

- ③・2019.12.24 「第1回八街演劇祭〜Yachimata Drama Festival〜」開催【P5,6資料】【P14年表】



- ④・ペイントされた車【P4証言1】【P8八街を描く1】  
 ・ペイントされたビル【P4証言1・展示スペース1】【P6資料】  
 ・ストリートピアノプロジェクト【P25八街を描く5】【P26証言5】【P26,27年表】



- ⑤・2019 第11回八街ミュージアム展より「八街愛賞」などを新設【P26年表】

- ⑥・2012 映画『エイトレンジャー(監督：堤幸彦、主演：関ジャニ∞)』のロケ地【P10年表】  
 ・2019 映画『太陽の家(監督：権野元、主演：長渕剛)』のロケ地  
 ・2019 サントリー カフェ・ド・ポス TV-CM「老舗」篇のロケ地



- ⑦・2020 YACHIMATA漫画化プロジェクト 八街ミュージアムとして、初めての画材の支援【P26年表】【P27八街を描く6】

- ⑧・2030年開通モノレール「Yachimata Airport Line」により、八街市は『成田空港の南の入り口』となる(※予想イメージ)【P28八街を描く7】

『山台インター駅』→  
 『小谷流の里ドギーズアイランド駅』→  
 『八街駅』→『富里駅』→『成田空港駅』

- ⑨・八街駅前、ロータリーの、人型落花生の巨大なエンブレム(※予想イメージ)【P28八街を描く7】



八街ミュージアム報告書1997-2020  
 ~街は小・中学校の卒業生で  
 構成されている~

2021年8月7日 初版第一刷発行

■発行  
 印旛地区教育研究会  
 第四部会図工・美術研究部

■編集  
 玉造明男(八街市立八街中学校)

■編集協力(五十音順)  
 秋葉千尋(成田市立成田中学校)  
 影山祐子(佐倉市立上志津中学校)  
 合屋あさえ(和音代表)  
 佐藤誠一郎(八街市立川上小学校)  
 森川琢也(八街市立八街東小学校)  
 吉岡友子(富里市立富里南中学校)

□八街ミュージアム展 主催  
 印旛地区教育研究会  
 第四部会図工・美術研究部

□八街ミュージアム展 協力  
 八街駅南口商店街振興組合  
 八街市中学校美術部顧問会  
 小谷流の里ドギーズアイランド  
 八街市の文化芸術振興を考える会

□八街ミュージアム展 後援  
 八街市教育委員会  
 (八街教育創生『MOTE』)

■八街ミュージアム 原案 2009年  
 廣川政和(印旛村立印旛中学校)

■八街ミュージアム 準備 2009年  
 廣川政和(印旛村立印旛中学校)  
 杉谷浩一(八街市立八街中央中学校)  
 玉造明男(成田市立成田中学校)

■八街ミュージアム 代表  
 ※2019年以降 印旛地区教育研究会 第四部会図工・美術研究部 部長が兼任  
 初代(2009年~)  
 杉谷浩一(八街市立八街中央中学校)  
 2代目(2015年~)  
 松下哲夫(八街市立八街中央中学校)  
 3代目(2017年~)  
 前川紗耶華(八街市立実住小学校)  
 4代目(2018年~)  
 玉造明男(八街市立八街中学校)

公式サイト  
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/index-y>  
 公式Twitter  
<http://twitter.com/ArtclubG>



表紙  
 「Eight-ching」2015 玉造明男

## 展示スペース8 身近な全ての場所に

お店の商品棚やショーウィンドウは最も身近なギャラリーです。商品を列べるプロであるお店の方は、アート作品を美しく展示してくれます。お店の展示に触発されて、多くの人々が、自宅の玄関や棚や部屋の中に、職場に、その他、日常の様々な場所にアートを飾るようになると、また一步、アートな街に近づいていきます。

「板倉履物店」2018笹引小



「総武住販」2019実住小



「秋山百貨店」2019八街東小



「あまさげや家具店」2019八街中央中



「あまさげや家具店」2018交進小



「さいくろパークささき」2018八街北小



「小谷流の聖ドギーズアイランド小谷流ベーカリー&カフェ」2020八街南中



「オランダ屋八街店」2019八街北中



「平林のだんご」2018二州小



「小谷流の聖ドギーズアイランド小谷流ファーマーズ」2019八街中



「和佳秀文具店」2018川上小



「須藤薬局」2020八街中



「富士アイス」2019実住小



「写真とカメラのスギハラ」2019八街南中



「小堀不動産」2019八街北中



「小川ピーナッツ」2020八街北小

